



Child Family Consultant

アドバンスコース第2回



NPO法人
子育て学協会

イントロダクション



CFCを学ぶルール

1. 事前資料には目を通し、課題は行ったうえで参加する
2. 主体的に行動し、積極的に関わる態度を忘れない
3. 参加者がお互いに学ぶ姿勢を持っていることを尊ぶ
4. 時間を守る

イントロダクション



講座の中の共有・議論への取り組み方

<話す>

- ・限られた時間の中で、自分が話す配分を心がける
- ・話したくないことは無理に話さないで良い

<聞く>

- ・話をさえぎって途中で口は挟まず、最後まで聞く
- ・相手が気持ちよく話せるような聞き方を心がける
- ・違う意見や違う視点、他の人の意見を一つの意見として肯定的に受け止める

イントロダクション



本日のスライドは配布版を
ホームページ上で公開しています。

講座中はテキストに自身で
「ポイントと思うこと」「気づき」などを
積極的にメモを取ってください。

本日のタイムスケジュール



イントロダクション 9:30~9:40

1. 事後課題のディスカッション 9:40~10:30

(休憩10分)

2. 子どもの把握 10:40~12:20

(お昼休憩60分)

3. 遊びの提案 13:20~14:40

(休憩10分)

4. 絵本の提案 14:50~16:25

5. まとめ・事後課題・アンケート

1. 事後課題

事後課題

事前課題で想定した「子育て相談」として考えられる項目について、今日学んだ観点を意識した上で具体的なアドバイスを考えてみてください。

- 課題の共有・ディスカッション 30分
- 質問・アドバイス



(休憩10分)

本日のタイムスケジュール



イントロダクション

1. 事後課題のディスカッション

(休憩10分)

2. 子どもの把握

(お昼休憩60分)

3. 遊びの提案

(休憩10分)

4. 絵本の提案

5. まとめ・事後課題・アンケート

2. 子どもの把握



履修ゴール

子どもの状況把握を行う上で必要な観点を理解する

○最初に把握しておきたい事柄の理解

○ワークショップでの観察を通じて把握する

2. 子どもの把握

2-1. 子どもを把握する上での心構え

①子どもの（親の）周りの人的環境、物的環境に目を向ける

②「今こういう状態にある」という事実を正しく理解することに努め、
良い悪いの評価はしない

③100人100通り、1人として同じ子どもはいないので、過去の経験や
知識による、決めつけはしない

親も大きな子ども、親も子どもも愛すべき存在であると意識する

2. 子どもの把握

2-2. 相談受付時の確認

- 相談スタート時にスムーズなコミュニケーションを取るために

現在の状況を知る

= 短い時間で身近な人になり信頼関係を得る

生まれてからの成育を知る

= どんな言葉をかけられて来たかを推し量る



2. 子どもの把握

2-2. 相談受付時の確認

●本人情報の確認

本人情報	
氏名	
生年月日	
在園名	
参加している教育機関	
本人の状況	いつもは何と呼ばれていますか ()
	いつも誰と遊びますか 一人・お父さん・お母さん・祖父母・兄弟・友達・その他 ()
	友達は大勢いますか いない ・ 少しいる ・ 大勢いる
	好きな遊び
	食べ物の好き嫌い ない
	ある 好きなもの ()
	嫌いなもの ()
	親から見た本人の特徴
身体状況	出産時の体重：約 g 既往症
	出産時期： 普通 ・ 早産 ・ 遅かった かかりやすい病気
	出産状況： 正常
	異常 () アレルギーの有無 有 ()
	発語： 歳 ヶ月頃 無
	歩き始めた年齢： 歳 ヶ月頃
	今までにした大きなケガ

2. 子どもの把握

2-2. 相談受付時の確認

●本人情報確認の目的

本人状況

- ・ 本人の徳性を知る手がかり
- ・ 本人とのコミュニケーションをスムーズにする糸口

身体状況

- ・ 出産に関わる情報、病気や怪我の情報は子どもの発達や養育環境に影響する

相談初期のコミュニケーションでのすれ違いを少なくすることが目的
言葉にした方がいいこと、しない方がいいことを見抜く



2. 子どもの把握

2-2. 相談受付時の確認

●本人情報の注意ポイント

本人情報	
氏名	
生年月日	
在園名	
参加している教育機関	
本人の状況	いつもは何と呼ばれていますか (
	いつも誰と遊びますか 一人・お父さん・お母さん・祖父母・兄弟・友達・
	友達は大勢いますか いない ・ 少しいる ・ 大勢いる
	好きな遊び
	食べ物の好き嫌い ない
	ある 好きなもの () 嫌いなもの ()
親から見た本人の特徴	
身体状況	出産時の体重：約 g 既往症
	出産時期： 普通 ・ 早産 ・ 遅かった かかりやすい病気
	出産状況： 正常
	異常 () アレルギーの有無
	発語： 歳 ヶ月頃 無
	歩き始めた年齢： 歳 ヶ月頃
今までにした大きなケガ	

教育観・生活環境

食生活・発達・躰

未熟児 お産の大変さ

2. 子どもの把握

2-2. 相談受付時の確認

● 家族情報の確認

家族情報					
家族構成	続柄	氏名	生年月日（年齢）	最終卒業校	会社名・職業・学年
子育て相談の目的 又は 受けようと思ったきっかけ					
住所	〒				
電話	電話	母携帯	父携帯		
M a i l	母M a i l		父M a i l		
子育て相談への同意	<p>NPO 法人子育て学協会 代表理事 浦郷 美紀 殿</p> <p>個人情報取り扱いの同意について 下記内容を確認の上同意いたします。 署名</p> <p>1. 個人情報の利用目的について 収集した個人情報は、本人の許可なく雇用管理の基礎資料その他当社で必要とされる作業の範囲内以外の目的では使用しません。</p> <p>2. 個人情報の第三者提供について 収集した個人情報は、委託業務、法律上公的機関への届出・提出が必要な場合、事故等での緊急時を除いて第三者へ提供しません。</p> <p>3. 個人情報の開示等について 収集した個人情報の開示、内容の訂正、追加、削除の求めがあった場合には、すみやかに対応します。</p>				

2. 子どもの把握

2-2. 相談受付時の確認

● 家族情報の確認の目的

家族構成

- ・ 子どもの養育環境の把握（人数、年齢）
- ・ 親の教育観のヒント（学習に対する意識）

相談目的・きっかけ

- ・ 抱えている問題の把握。どんなサポートが欲しいと思っているのかを知る

子どもが受けている影響の可能性を探るヒントを得る

2. 子どもの把握

2-2. 相談受付時の確認

● 家族情報の確認の注意ポイント

家族情報				
家族構成	続柄	氏名	生年月日（年齢）	最終卒業校
子育て相談の目的 又は 受けようと思ったきっかけ				
住所	〒			
電話	電話	母携帯	父携帯	
Mail	母Mail		父Mail	
子育て相談への同意	NPO 法人子育て学協会 代表理事 浦郷 美紀 殿 個人情報取り扱いの同意について 下記内容を確認の上同意いたします。 署名 1. 個人情報の利用目的について 収集した個人情報は、本人の許可なく雇用管理の基礎資料その他当社で必要とされる作業の範囲内以外の目的では使用しません。 2. 個人情報の第三者提供について 収集した個人情報は、委託業務、法律上公的機関への届出・提出が必要な場合、事故等での緊急時を除いて第三者へ提供しません。 3. 個人情報の開示等について 収集した個人情報の開示、内容の訂正、追加、削除の求めがあった場合には、すみやかに対応します。			

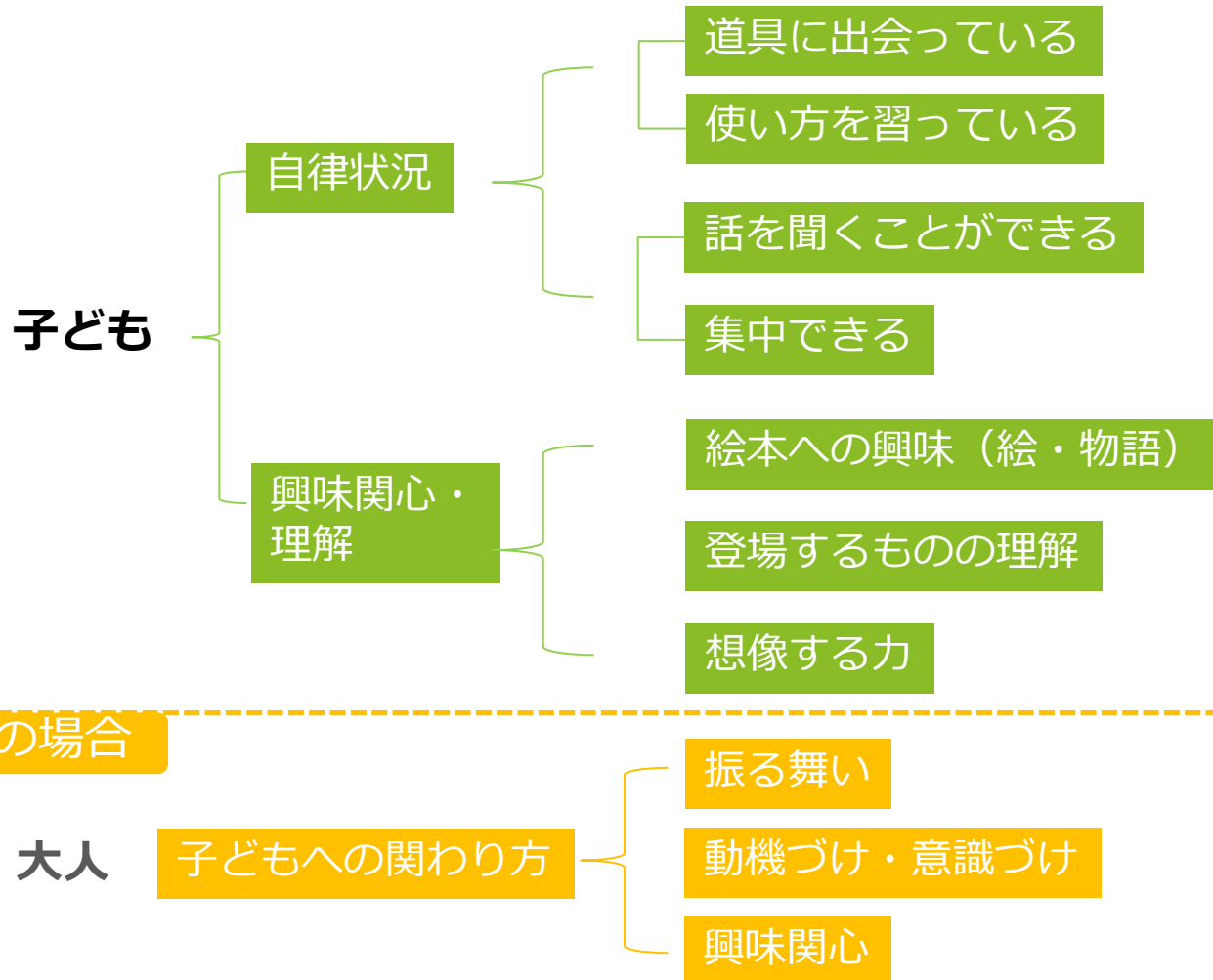
両親の年齢、職業、学歴
兄弟、祖父母

現状認識、理解

父親・母親のどちらの署名でくるかで、最終決定者が分かる

2. 子どもの把握

2-3. ワークショップを通じた子どもの把握概要



2. 子どもの把握

2-4. ワークショップ（親子観察）での子どもの把握

道具に出会っている

使い方を習っている

道具	観点
はさみ	持ち方 = 正しく持てているか 使用できる = どのくらいキレイに切れるか（精密さ）
クレヨン 鉛筆	持ち方 = 正しく持てているか 筆圧 = しっかり書けるか、強すぎ壊すことないか
粘土	触れるか どんなものが作れるか = どんな形をどのくらいキレイに作れるか
のり	触れるか 使い方 = どのくらいキレイに扱えるか

2. 子どもの把握

2-4. ワークショップ（親子観察）での子どもの把握

道具に出会っている

使い方を習っている

道具	観点
はさみ	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳：触れていく（大人が介助） ・3歳：一太刀切りから連続切り（直線～なだらかな曲線） ・4歳以上：紙を動かし、好きなように切ることができる
クレヨン 鉛筆	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳半ぐらい～：触れていく ・2歳：描くことを楽しむ ・3歳：筆圧が強くなり、形を表現していく ・4歳以上：具体的に描くことができる
粘土	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳半ぐらい～：触れていく ・2歳：指先をつかってこねる ・3歳：何かに見立てる ・4歳以上：具体的なものをつくる
のり	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳半～：触れていく ・2歳：手に取りぬる ・3歳：適量を意識してぬる ・4歳：手段として利用できるようになる



(休憩10分)

2. 子どもの把握

2-4. ワークショップ（親子観察）での子どもの把握

話を聞くことができる

集中できる

	観点
人の話を聞く	おしゃべりしない
座って聞ける	時間中席から立たない
集中している	他の場所を見ない、他のことをしない

2. 子どもの把握

2-4. ワークショップ（親子観察）での子どもの把握

話を聞くことができる

集中できる

	観点
人の話を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳半：名前を呼ばれると話が聞ける ・2歳：話していることを理解でき、反応する ・3歳：集団言語指示が理解できる ・4歳～：最後まで聞いてから行動に移すことができる
座って聞ける	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳半：椅子には興味はあるが座っていることは難しい ・2歳：興味のあることであれば着席していただける ・3歳：聞いていただけることは個人差もあるが、約15分は離席しない ・4歳～：集団の話を最後まで聞いて座っていただける（約30分）
集中している	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳半：視覚の刺激があると注目はできる ・2歳：興味のあることであれば集中できる ・3歳：何事でも15分以上は集中していただける ・4歳～：何事でも集中して取り組むことができる（約30分）

2. 子どもの把握

2-4. ワークショップ（親子観察）での子どもの把握

絵本への興味（絵・物語）

登場するものの理解

想像する力

	観点
気持ちの想像	関心がある⇒必要な対応ができる
イメージの想像	反応的なイメージ⇒関連する情報を集めてイメージできる
質問を理解できる	単純な答え⇒相手の意図を汲み取った答え
答えを表現できる	単語⇒自分の気持ちや感情を含めて表現できる

2. 子どもの把握

2-4. ワークショップ（親子観察）での子どもの把握

絵本への興味（絵・物語）

登場するものの理解

想像する力

	観点
気持ちの想像	<ul style="list-style-type: none">・ 3歳：表情から気持ちを理解する・ 4～5歳：気持ちに合わせた行動をする
イメージの想像	<ul style="list-style-type: none">・ 1歳：実物の認識、年齢が高くなると体験したことがイメージできる (EX)お稽古事ができるようになる
質問を理解できる	<ul style="list-style-type: none">・ 1歳半～2歳：教わったものを答える・ 3～5歳：動機づけされ行動をする
答えを表現できる	<ul style="list-style-type: none">・ 1歳：反射的な表現・ 5～6歳：意図を理解して表現できる

2. 子どもの把握

2-5. ワークショップ（親子観察）での大人の把握

振る舞い

動機づけ・意識づけ

興味関心

	観点
5つのついついの傾向	口、手、物、答、自分の都合を出し過ぎていないか
言葉をかけているか	言葉をかけているか どんな内容の言葉か
何を見ているか	目線、話す相手

子どもとの調和を見る
外ではよそ行きで体裁を考えていても、
家とのギャップなどが覗える

2. 子どもの把握

2-5. ワークショップ（親子観察）での大人の把握

振る舞い

動機づけ・意識づけ

興味関心

	観点
5つのついついの傾向	口数・・・小さい時は細かい動機づけ、大きくなったら待つOR問いかけで引き出す 言葉の種類・・・否定語や否定するような言葉 タイミング・・・集中力を妨げない 子どもを見ているか・・・先生を見てちゃんとさせることに気が捉われていないか
言葉をかけているか	
何を見ているか	

子どもとの調和を見る
外ではよそ行きで体裁を考えていても、
家とのギャップなどが覗える

2. 子どもの把握

2-6. ワークショップ（親子観察）での親子の把握

初対面、初めての場所で直接子どもとコミュニケーションを取り、子どもを把握することは難しいことです。親子で遊んでもらう時間を自然に作り出し、子どもの様子、親の関わり方を観察してみてください。

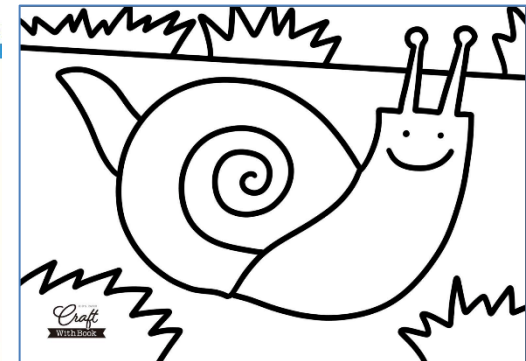
子どもの把握したい要素と親の関わりを見るためにWithBookは最適なツールです

絵本への興味関心、話を聞く、道具、親子の関わりが短い時間でも観察できます。
EX)「絵本とぬりえを持ってきたのですが、お子さんに読んであげてみてください。絵本に出てきた絵の塗り絵もあるので、こちらのクレヨンで終わったらやってみてくださいね。」

●子どもの興味関心と発語をテーマにしたオリジナル絵本

●遊び方やツールを取り出せるアプリ

●ぬりえやクラフトなど



2. 子どもの把握

2-7. 事後課題①

WithBookプログラムを見学し、子どもの様子の把握を行って下さい。

- ・「ワークショップカルテ」には、事実と考察は分けて記入すること。
- ・「徳性シート」に沿って子どもの徳性を記入してみましよう。
- ・考察を考える上で難しかったことをメモしておいて下さい。

※別途、事務局よりメールにて、課題の実施方法をご連絡いたします。

1月13日（土）の4回目までに行ってください



2. 子どもの把握

●ワークショップカルテ		ワークショップカルテ	
氏名			
年月日			
絵本			
自律状況	挨拶	興味関心理解	色の認識
	おかたづけ		形の認識
	はさみ		気持ちの想像
	クレヨン		イメージの想像
	その他書くもの		質問を理解できる
	粘土		答えを表現できる
	のり		好きな絵本
	シール	備考	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; background-color: #92d050; padding: 20px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> 状態把握のための項目例 </div>
	集中している		
	座って聞ける		
大人の把握	振る舞い		
	意識づけ		
	興味関心		

2. 子どもの把握

● 徳性シート



With Book Program

良質なコミュニケーションを親子に

With Book プログラムは、絵本という想像力を高める教材を親子で楽しみながら、大人の言葉がけ（乗っ掛け・乗っ掛け）とプロセスを大切にする事で、「自分らしさを精進自ら伸びていく子ども」を育てるプログラムです。

パパママがこのプログラムを通して「子育てにひと手間がける」と思え、そこには必ず「親子の良質なコミュニケーション」があります。そして、それは子どもの心を本来に安定させ、その子の心を心に育み、さまざまな自信溢れを身につかせます。キットを完成させること、ガイドブックの通りにすることには拘らず、お子さんとのコミュニケーションの時間を是非楽しんでください。

とはいえ、「プロセスを大切に、子どもに乗っ掛ける」と言われてもなかなかうまくいけるものではありません。そこで、この教室では、「徳性発見シート」というものをお渡しします。

【徳性発見シートについて】

徳性＝その子の持っている良いまから、「徳」という言葉と「徳性」を合体させた言葉。
徳性シート＝大人は目に見えるものに回れやすく美は子どもの本来の姿を見ることのできないのではないかと、という問題意識から、その子の持っているものをよく見るために考え出されたシートです。

【このシートの使い方】子どもは毎回、その時の気分や、絵本の題材や行うワークや材料への興味関心が異なるので様々な徳性を見つけてください。是非毎回の子どもの様子を記録してみてください。繰り返し見て行く中で子どもの伸ばしてあげたい「徳性」も見えてきます。

子どもの徳性は年齢の数

1歳だったら 1つ
2歳だったら 2つ……

子どもの徳性の数は、年齢の数くらいと言われています。
大人になるまでにたくさんの徳性が生まれ、1人の人格として集約されます。



どんなステキな大人に育って頂けるか楽しみですね。

NPO法人子育て学協会
会長 山本 直美

言葉かけ教室子育て講座用Memo テーマ

徳性発見シート

絵本：
ワークショップ：

年 月 日
歳 ヶ月

絵本やワークショップを通じて見えた様子を記録していきましょう！

思考の徳性	イメージで捉えるのが上手	具象的にディテールが見える
	直観で自由に表現できる	快楽ある表現ができる
痛みの徳性	表情が	感情の表現量
	多岐にわたる	自分の意志を主張できる
行動の徳性	慎重に取り組める	チャレンジできる
	集中して取り組める	いろんなことに興味を持てる
コミュニケーションの徳性 ※言葉がけ教室 等集約の中での 様子	お友達を観察している	お友達に話かける
	自分のことに集中できる	まわりを気にすることができる

気づき
Memo

気づきつけたプロセスやスタンス

伝えたい感想・気持ち





(お昼休憩60分)

本日のタイムスケジュール



イントロダクション

1. 事後課題のディスカッション

(休憩10分)

2. 子どもの把握

(お昼休憩60分)

3. 遊びの提案

(休憩10分)

4. 絵本の提案

5. まとめ・事後課題・アンケート

3. 遊びの提案



履修ゴール

「遊び」と子どもの課題設定との関係を理解する

○ココロを育む遊び方を理解する

○保護者の「遊び」の理解を深める

3. 遊びの提案

3-0. 事前課題①

家庭での「子どもの遊び」を提案する上で、どのような遊びがありますか。
年齢に合わせて考えてみてください。

※幼児向け遊びの本なども参考にしてみてください。

○グループで共有してください。 5分

		1～2歳	3～4歳	5～6歳
内	動			
	静			
外	動			
	静			



3. 遊びの提案

3 - 1. 高めたいエネルギー

好奇心

探究心

自発性

好奇心 = はじめてのこと、知らない世界に対して興味が持てる

探究心 = 興味関心があることを楽しみながら深く掘り下げられる

自発性 = やりたいことを実現するにはどうしたらいいかを自ら考えられる

子どもが本来備えている力を制限せずに伸ばしていくもの



3. 遊びの提案

3-1. 高めたいエネルギー

好奇心=はじめてのこと、知らない世界に対して興味が持てる

好奇心	遊び例	1~2歳	3~4歳	5~6歳
		留意点	留意点	留意点
屋内	静 ねんど	口に入れないように。 素材と仲良くなるため、1歳触る楽しさを。一緒に楽しむ。2歳丸める、ちぎる、伸ばすなど変化の様子を見る機会を作る。	様々な素材や色の粘土を用意してみる。作った作品の当てっこをする。	本物に出逢う機会を大切に。経験・体験をしたあとの表現を大切に。
	動 ダンス	多様な音楽・音に出逢う機会を提供。 子どもが音に反応している様子に共感する。	リズムがはっきりしていて子どもが踊っている映像と一緒に楽しむ。羞恥心を手放して心地よく動く楽しさを大人と共に体感する。	本物に出逢う機会を大切に。子ども向けのミュージカルやショーなどを楽しむ。友達と、または大人となどチームでのダンスも経験。
屋外	静 砂場	口や目に入れないように。 素材と仲良くなるために、汚れることを気にせず楽しめるようにする。	スコップ、バケツ、容器など道具や水を用意してみる。みんなと一緒に山を作るなどにトライしてみる。	砂場に使える道具などを工夫し、組み合わせることで遊びの幅を広げる。EX)ビー玉を転がす。
	動 ボール遊び	使いやすいサイズ・重さのボールを用意する。 転がす、蹴る、投げる。	向かい合い、相手に様々な方法でボールを渡す。距離をだんだん伸ばす。やり方をいろいろ試す。	順番を守り、交代する。また、同世代とのボール遊び、チームでのボールを使った遊び(サッカーなど)を経験してみる。



3. 遊びの提案

3-1. 高めたいエネルギー

好奇心 = はじめてのこと、知らない世界に対して興味が持てる

好奇心	遊び例	1~2歳	3~4歳	5~6歳
		留意点	留意点	留意点
屋内	静 ねんど	口に入れないように。 素材と仲良くなるため、1歳触る楽しさを。一緒に楽しむ。2歳丸める、ちぎる、伸ばすなど変化する様子を見る機会を作る。	様々な素材や色の粘土を用意してみる。作った作品の当てっこをする。	本物に出会う機会を大切に。経験・体験をしたあとの表現を大切に。
	動 ダンス	多様な音楽・音に出会う機会を提供。 子どもが音に反応している様子に共感する。	リズムがはっきりしていて子どもが踊っている映像と一緒に楽しむ。羞恥心を手放して心地よく動く楽しさを大人と共に体感する。	本物に出会う機会を大切に。子ども向けのミュージカルやショーなどを楽しむ。友達と、または大人となどチームでのダンスも経験。
屋外	静 砂場	口や目に入れないように。 素材と仲良くなるために、汚れることを気にせず楽しめるようにする。	スコップ、バケツ、容器など道具や水を用意してみる。みんなと一緒に山を作るなどにトライしてみる。	砂場に使える道具などを工夫し、組み合わせることで遊びの幅を広げる。EX)ビー玉を転がす。
			向かい合い、相手に様々な方法	順番を守り、交代する、また

アドバイスのPoint :

危険を回避し、知らないこと・できないことに出会う機会・時間を作る



3. 遊びの提案

3-1. 高めたいエネルギー

探究心 = 興味関心があることを楽しみながら深く掘り下げられる

探究心	遊び例	1~2歳	3~4歳	5~6歳
		留意点	留意点	留意点
屋内	静 ねんど	口に入れないか注意。 「綺麗だね」、「ムニユムニユするね」「気持ちいいね」などの意識づけ	子どもがやりたいように粘土を探究させてみる。 時間を気にしないようにする。 作ったものを使って遊ぶ。 作った作品と関連するものをもっと大きく、もっと小さく作れないかトライしてみる。	とっておける環境（保存）を用意し満足行くところまで展開できるようにする。
	動 ダンス	子どもと一緒に体の動きを楽しむ。大人がしてみせる。	様々な動物の動きを知り、マネて踊るなどしてみる。	ビデオや本物に出逢う機会を与えて実践に活かすヒントを提供する。動きを練習する。
屋外	静 砂場	口や目に入らないようにする。 色々な種類の砂に触れる（土・さらさらの砂など）手の上に乗せる、靴に乗せるなど	集中して探究できるように時間を十分にとる。	四季や天気での砂場の状態の違いについて問いかけてみるなど、「不思議」なことに気づく対話を大切に。
	動 ボール遊び	空気が抜けているビーチボールなど想定外の動きをするボールを用意してみる。空気が入っているものと2つ用意し、違いを楽しむ。	転がしたり、投げたりする楽しさに気づく。	色々な種類のボールがあることに気づく、どれほど遠くへ飛ぶのか、狙った場所に飛ばせるのかなどにも挑戦。

3. 遊びの提案

3-1. 高めたいエネルギー

探究心 = 興味関心があることを楽しみながら深く掘り下げられる

探究心	遊び例	1~2歳	3~4歳	5~6歳
		留意点	留意点	留意点
屋内	静 ねんど	<p>口に入れないか注意。 「綺麗だね」、「ムニユムニユするね」「気持ちいいね」などの意識づけ</p>	<p>子どもがやりたいように粘土を探究させてみる。 時間を気にしないようにする。 作ったものを使って遊ぶ。 作った作品と関連するものをもっと大きく、もっと小さく作れないかトライしてみる。</p>	<p>とっておける環境（保存）を用意し満足行くところまで展開できるようにする。</p>
	動 ダンス	<p>子どもと一緒に体の動きを楽しむ。大人がしてみせる。</p>	<p>様々な動物の動きを知り、マネて踊るなどしてみる。</p>	<p>ビデオや本物に出逢う機会を与えて実践に活かすヒントを提供する。動きを練習する。</p>
屋外	静 砂場	<p>口や目に入らないようにする。 色々な種類の砂に触れる（土・さらさらの砂など）手の上に乗せる、靴に乗せるなど</p>	<p>集中して探究できるように時間を十分にとる。</p>	<p>四季や天気での砂場の状態の違いについて問いかけてみるなど、「不思議」なことに気づく対話を大切に。</p>

アドバイスのPoint :
環境や時間への配慮を大切にする



3. 遊びの提案

3-1. 高めたいエネルギー

自発性 = やりたいことを実現するにはどうしたらいいかを自ら考えられる

自発性		遊び例	1~2歳	3~4歳	5~6歳
			留意点	留意点	留意点
屋内	静	ねんど	口に入れないように注意はするが、自分なりに粘土と出会って、仲良くなっていくことを見守る。	「遊び方」を教えるのではなく、自ら試してみることを見守り、時に環境のサポートを行う。認める言葉で意識づける。	十分な時間・スペースを確保する。体験・経験のあとに再現したくなる気持ちも生かしていく。(何かを見た、どこかに行ったなど)
	動	ダンス	子どもの動きに合わせて大人も体を動かす。	音に合わせて、からだを動かすことに慣れたら、色々な動きを大人がダンスをして見せてあげることも良い。(選択肢に繋がる・動きのヒントを得る)	法則性を持ったダンスや長い音楽などでダンスをしてみる。友達と一緒にダンスをする、チームの楽しさを味わう。多様なダンスを、実際に目にする機会も大切に。
屋外	静	砂場	口と目に入れないように。遊びを提案せずに、砂を手や足に乗せるなど動きたくなる動機づけをする。	子どもと共に共感をする。発見、感動などに寄り添う。	十分な時間が必要。
	動	ボール遊び	大人が安全にボールを投げる(転がす)。	楽しめるスペースが確保されているかを確認した上でボール遊びを始める。	周りの環境に注意。屋根にのったり何かを割ったり、力が出てくるので人にあたらないかも注意する。



3. 遊びの提案

3-1. 高めたいエネルギー

自発性 = やりたいことを実現するにはどうしたらいいかを自ら考えられる

自発性		遊び例	1~2歳	3~4歳	5~6歳
			留意点	留意点	留意点
屋内	静	ねんど	口に入れないように注意はするが、自分なりに粘土と出会って、仲良くなっていくことを見守る。	「遊び方」を教えるのではなく、自ら試してみることを見守り、時に環境のサポートを行う。認める言葉で意識づける。	十分な時間・スペースを確保する。体験・経験のあとに再現したくなる気持ちも生かしていく。(何かを見た、どこかに行ったなど)
	動	ダンス	子どもの動きに合わせて大人も体を動かす。	音に合わせて、からだを動かすことに慣れたら、色々な動きを大人がダンスをして見せてあげることも良い。(選択肢に繋がる・動きのヒントを得る)	法則性を持ったダンスや長い音楽などでダンスをしてみる。友達と一緒にダンスをする、チームの楽しさを味わう。多様なダンスを、実際に目にする機会も大切に。
屋外	静	砂場	口と目に入れないように。遊びを提案せずに、砂を手や足に乗せるなど動きたくなる動機づけをする。	子どもと共に共感をする。発見、感動などに寄り添う。	十分な時間が必要。 周りの環境に注意。屋根にのっ

アドバイスのPoint :

目標を持ち⇒できたことを認め⇒自己肯定感を高めていく



3. 遊びの提案

3-2. 育みたい心

親切心

自尊心

道徳心

価値観

親切心 = 相手の立場を察し、相手のために自ら行動を起こせる

自尊心 = ありのままの自分を受け止め、自分を信じてチャレンジできる

道徳心 = 良いことと悪いことの判断ができる

価値観 = 自分の信念を持ちながら、相手の考えも認めることができる

多様な人間関係からバランスを身に付けていくもの
大切なのは「ほどほど感」



3. 遊びの提案

3-2. 育みたい心

親切心 = 相手の立場を察し、相手のために自ら行動を起こせる

親切心		遊び例	1～2歳	3～4歳	5～6歳
			留意点	留意点	留意点
屋内	静	ねんど	半分にするとところを目の前で見せる。「はい、〇〇ちゃんどうぞ」「ありがとう」と、大人が言ってみせる。	わざとへらや型などの道具を人数分ではなく少なめに用意しておき、貸し借りが出来るように練習する。	他の子どもの作品の良さを見つめられる。言葉を掛け合える。
	動	ダンス	「一緒に」ダンスをするって嬉しいね、と他者を意識出来るように言葉をかける。	周りの音が邪魔にならないか？など気にかける姿を見せる。	まわりの音が邪魔にならないか？など子どもが自ら気にかけるようにする。
屋外	静	砂場	みんなで遊ぶと楽しいね、と声をかけながら遊びを見守る。	道具など友達と仲良く使おうと声をかけ、自分の物を貸してあげることができたら意識づけをする。複数の子どもが砂場で遊べるようにする。	相手の気持ちを考えながら自分も楽しめるように水を使う時、幅を広げる時に一声かけられるように促す。
	動	ボール遊び	「いくよ」「よくとれたね」と丁寧に言葉をかける。	他の友達とも仲良く使おうと声をかけ、複数の子どもがボールと一緒に遊べるように声をかける。	投げるときの強さを強調し、取りやすいように投げてあげるとよいことに気づくよう声掛けする。

3. 遊びの提案

3-2. 育みたい心

親切心 = 相手の立場を察し、相手のために自ら行動を起こせる

親切心		遊び例	1~2歳	3~4歳	5~6歳
			留意点	留意点	留意点
屋内	静	ねんど	半分にするとところを目の前で見せる。「はい、〇〇ちゃんどうぞ」「ありがとう」と、大人が言ってみせる。	わざとヘラや型などの道具を人数分ではなく少なめに用意しておき、貸し借りが出来るように練習する。	他の子どもの作品の良さを見つけられる。言葉を掛け合える。
	動	ダンス	「一緒に」ダンスをするって嬉しいね、と他者を意識出来るように言葉をかける。	周りの音が邪魔にならないか？など気にかける姿を見せる。	まわりの音が邪魔にならないか？など子どもが自ら気にかけるようにする。
	静	砂場	みんなで遊ぶと楽しいね、と声をかけながら遊びを見守る。	道具など友達と仲良く使おうと声をかけ、自分の物を貸してあげることができたら意識づけをする。複数の子どもが砂場で遊ぶよう	相手の気持ちを考えながら自分も楽しめるように水を使う時、幅を広げる時に一声かけられるよ

アドバイスのPoint :

周りの人とどんなコミュニケーションを取ると良いか見本を見せ、意識づけを通して学ぶ（して欲しいことの見本がないと学べない）

3. 遊びの提案

3-2. 育みたい心

自尊心=ありのままの自分を受け止め、自分を信じてチャレンジできる

自尊心	遊び例	1~2歳	3~4歳	5~6歳
		留意点	留意点	留意点
屋内	静 ねんど	探求していること（やっていること）そのものを認め、「楽しいね」「不思議だね」等声をかける。	どのようなものを創っても、プロセスを認める。「集中していたね」「何度もやっていたね」	他児との違いに気づき、違うことで自分の作品に愛着・自信が持てるようそれぞれの良さを伝えていく。
	動 ダンス	身体を動かすこと、リズムにのることそのものの楽しさを共有する。	子どものオリジナルの踊りを真似る。（逆模倣）。	子どもに教えてもらう。子どもに頼る。（踊りを考えたいんだけど、おひさまみたいな動きってどんなかな？など）
屋外	静 砂場	砂に触れたね、気持ちいいねなど、出来たことに目を向けられるような言葉かけをしながら見守る。	子どもの考えた表現について認めていく。プロセスを含めて、丁寧にフィードバックをする。	プロセス・成果物を一連に写真におさめ、展示する。（こんな気持ちからこんなふうにじっくり作っていき、これが完成しました。など）
	動 ボール遊び	ボールを転がせたね、止められたねなど、出来たことに、目を向け認めていくような言葉かけをする。	挑戦したプロセスを認めていく。	的にいれられた、遠くまで投げられた、などに挑戦できるような環境や機会を用意する。

3. 遊びの提案

3-2. 育みたい心

自尊心=ありのままの自分を受け止め、自分を信じてチャレンジできる

自尊心	遊び例	1~2歳	3~4歳	5~6歳
		留意点	留意点	留意点
屋内	静 ねんど	探求していること（やっていること）そのものを認め、「楽しいね」「不思議だね」等声をかける。	どのようなものを創っても、プロセスを認める。「集中していたね」「何度もやっていたね」	他児との違いに気づき、違うことで自分の作品に愛着・自信が持てるようそれぞれの良さを伝えていく。
	動 ダンス	身体を動かすこと、リズムにのることそのものの楽しさを共有する。	子どものオリジナルの踊りを真似る。（逆模倣）。	子どもに教えてもらおう。子どもに頼る。（踊りを考えたいんだけど、おひさまみたいな動きってどんなかな？など）
	静 砂場	砂に触れたね、気持ちいいねなど、出来たことに目を向けられるような言葉かけをしない	子どもの考えた表現について認めていく。プロセスを含めて、丁寧にフィードバックをする。	プロセス・成果物を一連に写真におさめ、展示する。（こんな気持ちからこんなふうにじっくり作っていき、これが

アドバイスのPoint :

チャレンジすることへの安心感を持たせる。できなくてもがっかりしない。
できたことを認め意識づけしていく。

3. 遊びの提案

3-2. 育みたい心

道徳心 = 良いことと悪いことの判断ができる

道徳心	遊び例	1~2歳	3~4歳	5~6歳
		留意点	留意点	留意点
屋内	静 ねんど	終わったら、片付けも一緒にやる。手を洗うなどの一連のルールを「気持ちいい」「また遊ぶ時に使えるようにね」など言葉をかけて一緒に行く。	ルールを直接伝えるのではなく、「粘土終わったらどうするんだっけ」と問いかけを行う。	作品をどう扱うのかについて一緒に考える。「飾る」「崩す」「プレゼントする」「写真に残しておく」など愛着のある物の扱いについて学ぶ機会にする。
	動 ダンス	踏んだりぶつかったりするものが無いかを確かめることを一緒に行く。	あぶない動きや大きな音になった時には、ルールを決める。	踊りという表現を通して日常の嬉しいこと悲しいことを表現してみる。
屋外	静 砂場	順番があることを知らせ、それを守るとみんなが嬉しいねと声をかける。	友達との取り合いがあった場合に、何が悲しかったのか、どうしたらよかったかなどの問いかけをその都度おこなう。	嫌なことがあった時に、相手の気持ちを考えサポートしたり共感したりできるように伝えていく。
	動 ボール遊び	道路やお店などではボールが転がらないように袋に入れて持つ、遊ばないなどのルールを決める。守れたことは意識づけする。	ルールを直接伝えるのではなく、「ボールを持ってお外行くときはどうするんだっけ」と問いかけを行う。何か困ったことがあった時に一緒に考える。	ルールのあるボール遊びを行い、ルールを守ることの必要性を体験する。

3. 遊びの提案

3-2. 育みたい心

道徳心 = 良いことと悪いことの判断ができる

道徳心	遊び例	1~2歳	3~4歳	5~6歳
屋内	静 ねんど	留意点 終わったら、片付けも一緒にやる。手を洗うなどの一連のルールを「気持ちいい」「また遊ぶ時に使えるようにね」など言葉をかけて一緒に行く。	留意点 ルールを直接伝えるのではなく、「粘土終わったらどうするんだっけ」と問いかけを行う。	留意点 作品をどう扱うのかについて一緒に考える。「飾る」「崩す」「プレゼントする」「写真に残しておく」など愛着のある物の扱いについて学ぶ機会にする。
	動 ダンス	踏んだりぶつかったりするものが無いかを確かめることを一緒に行く。	あぶない動きや大きな音になった時には、ルールを決める。	踊りという表現を通して日常の嬉しいこと悲しいことを表現してみる。
	静 砂場	順番があることを知らせ、それを守るとみんなが嬉しいねと声をかける。	友達との取り合いがあった場合に、何が悲しかったのか、どうしたらよかったかなどの問いかけをその都度おこなう。	嫌なことがあった時に、相手の気持ちを考えサポートしたり共感したりできるように伝えていく。

アドバイスのPoint :

ルールや約束を伝え、できたことを意識づけしていく。
自分で考え決める機会を持つ。

3. 遊びの提案

3-2. 育みたい心

価値観 = 自分の信念を持ちながら、相手の考えも認めることができる

価値観		遊び例	1～2歳	3～4歳	5～6歳
			留意点	留意点	留意点
屋内	静	ねんど	自由に、やりたいように探求することをサポートする。 口に入れないように注意。	創ったものに対して、「○○ちゃんは、まるいかたちが好きなんだね」「小さなものをたくさんつくることが上手だね」など、気づいたことを意識づけとして言葉かけする。	どこが気に入っているのかについて問いかける。他の子どもの作品の良いところを発言させる。
	動	ダンス	自由に、動きたいように動くことを共に味わう。	動きにたいして、「こんな動きがすきなんだね」「面白いね」と、意識付けする言葉をかける。	どんな動きが気に入っているのかについて問いかける。多様な音楽やダンスに出逢う機会を提供する。
屋外	静	砂場	自由に砂を探求するサポートをする。 口や目に入れないように注意。	砂での遊び方、プロセスを観察し、「砂をいじっているのが楽しいんだね」「おやまにするのが好きなんだね」と意識づけをしてあげる。	集中して遊び終わったあとに、どんなところが楽しかったか問いかける。
	動	ボール遊び	ボールを転がしたり、自由に遊んでみることをサポート。	「遠くに投げたいんだね。」「ここに入るように投げたんだね」など、どうしたかったのかを言語化して伝える。	色々な遊び方を伝えた上で自分で選ぶという機会を経験させる。

3. 遊びの提案

3-2. 育みたい心

価値観 = 自分の信念を持ちながら、相手の考えも認めることができる

価値観		遊び例	1~2歳	3~4歳	5~6歳
			留意点	留意点	留意点
屋内	静	ねんど	自由に、やりたいように探求することをサポートする。 口に入れないように注意。	創ったものに対して、「○○ちゃんは、まるいかたちが好きなんだね」「小さなものをたくさんつくることが上手だね」など、気づいたことを意識づけとして言葉かけする。	どこが気に入っているのかについて問いかける。他の子どもの作品の良いところを発言させる。
	動	ダンス	自由に、動きたいように動くことを共に味わう。	動きにたいして、「こんな動きがすきなんだね」「面白いね」と、意識付けする言葉をかける。	どんな動きが気に入っているのかについて問いかける。多様な音楽やダンスに出逢う機会を提供する。
屋外	静	砂場	自由に砂を探求するサポートをする。 口や目に入れないように注意。	砂での遊び方、プロセスを観察し、「砂をいじっているのが楽しいんだね」「おやまにするのが好きなんだね」と意識づけをしてあげる。	集中して遊び終わったあとに、どんなところが楽しかったか問いかける。

アドバイスのPoint :
オリジナルの選択を大切に。他の選択も認め楽しむ

3. 遊びの提案

3-3. 子育て相談でのコミュニケーション

Step 1. 子どもの好きな遊びを知る

⇒探究の時間が持てているか、様々なものに出会えているか

- ・日常生活の中で、具体的にどんな時間にどのくらいの長さで何をしているのか。頻度はどのくらいのものなのか。

Step 2. 親の遊びへの関心を知る

⇒子どもと行う遊び、関与の仕方。（親の小さいころ好きだった遊び）

- ・子どもとの遊びへの関心や、楽しめているか。
- ・自分自身の好きなことと子どもの好きな遊びとのバランス

3. 遊びの提案

3-3. 子育て相談でのコミュニケーション

Step3.親へ遊びの動機づけをする

- 子どもの効果

「遊び」＝「探究」の時間を大切にすることができる
親の関わり方が変わることで、自分らしさを大切にすることができる
自分だけでは気が付かない遊びの提案を受ける機会が増える

- 大人の効果

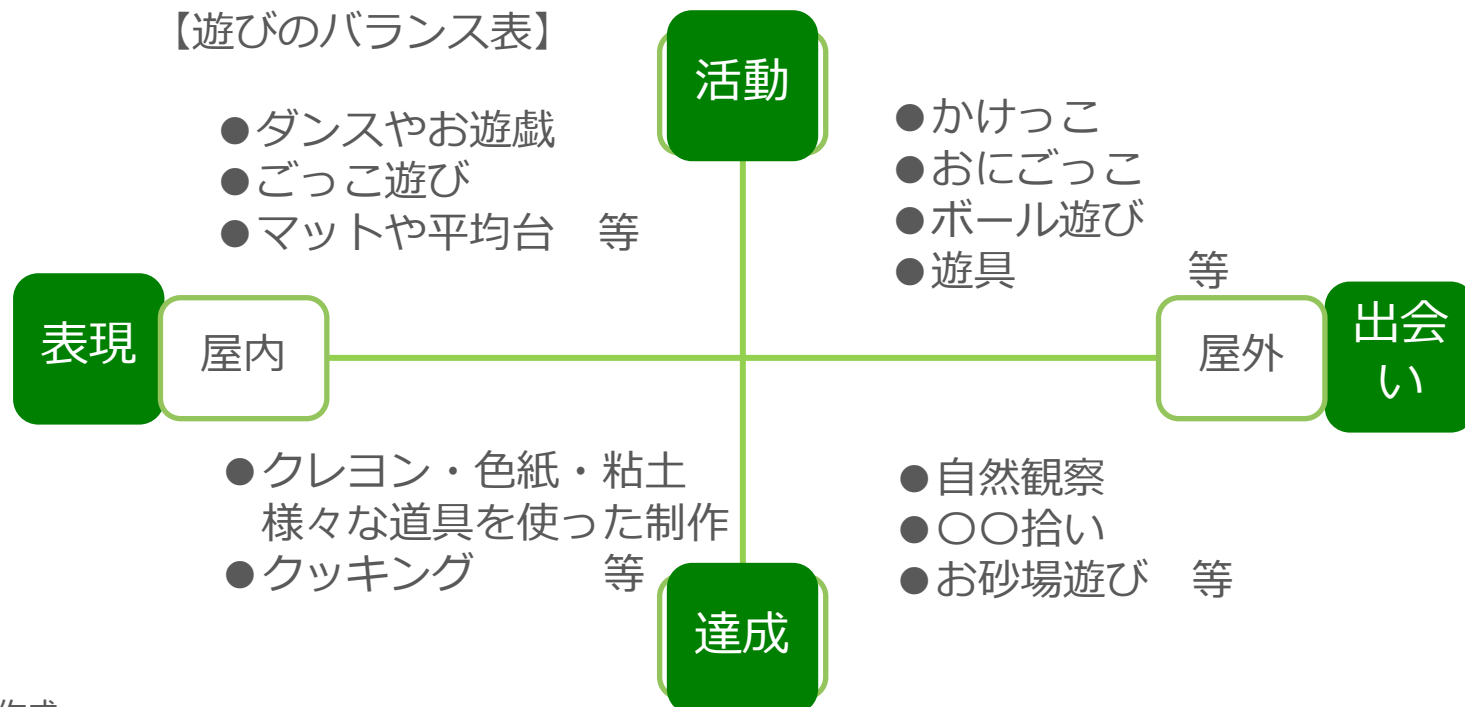
子どもと一緒に取り組めることを見つけることで、コミュニケーションが増える

3. 遊びの提案

3-3. 子育て相談でのコミュニケーション バランスと数

偏らない、知らないこと・出来ないことへの出会いの機会を意識する

いろんなものに触れることは、自分らしさ・好きなものを発見できる機会

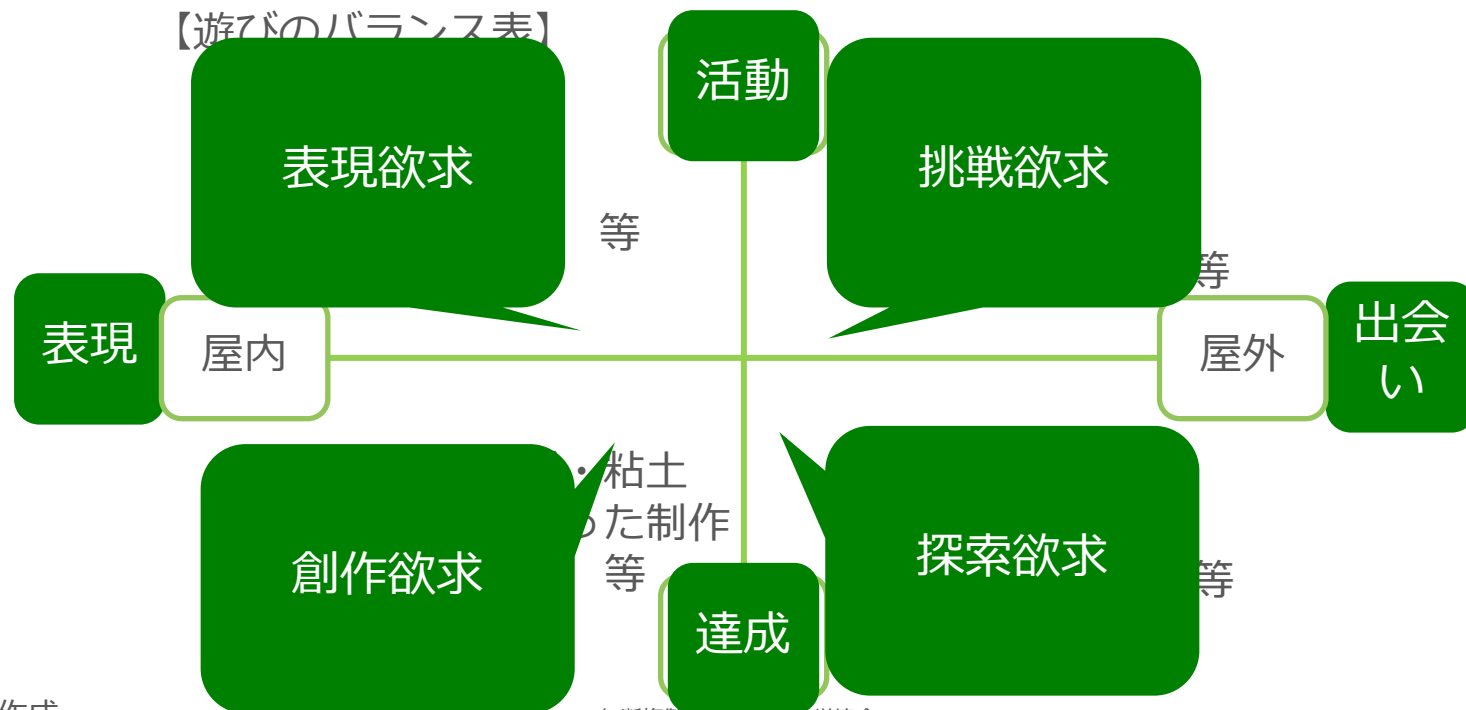


3. 遊びの提案

3-3. 子育て相談でのコミュニケーション バランスと数

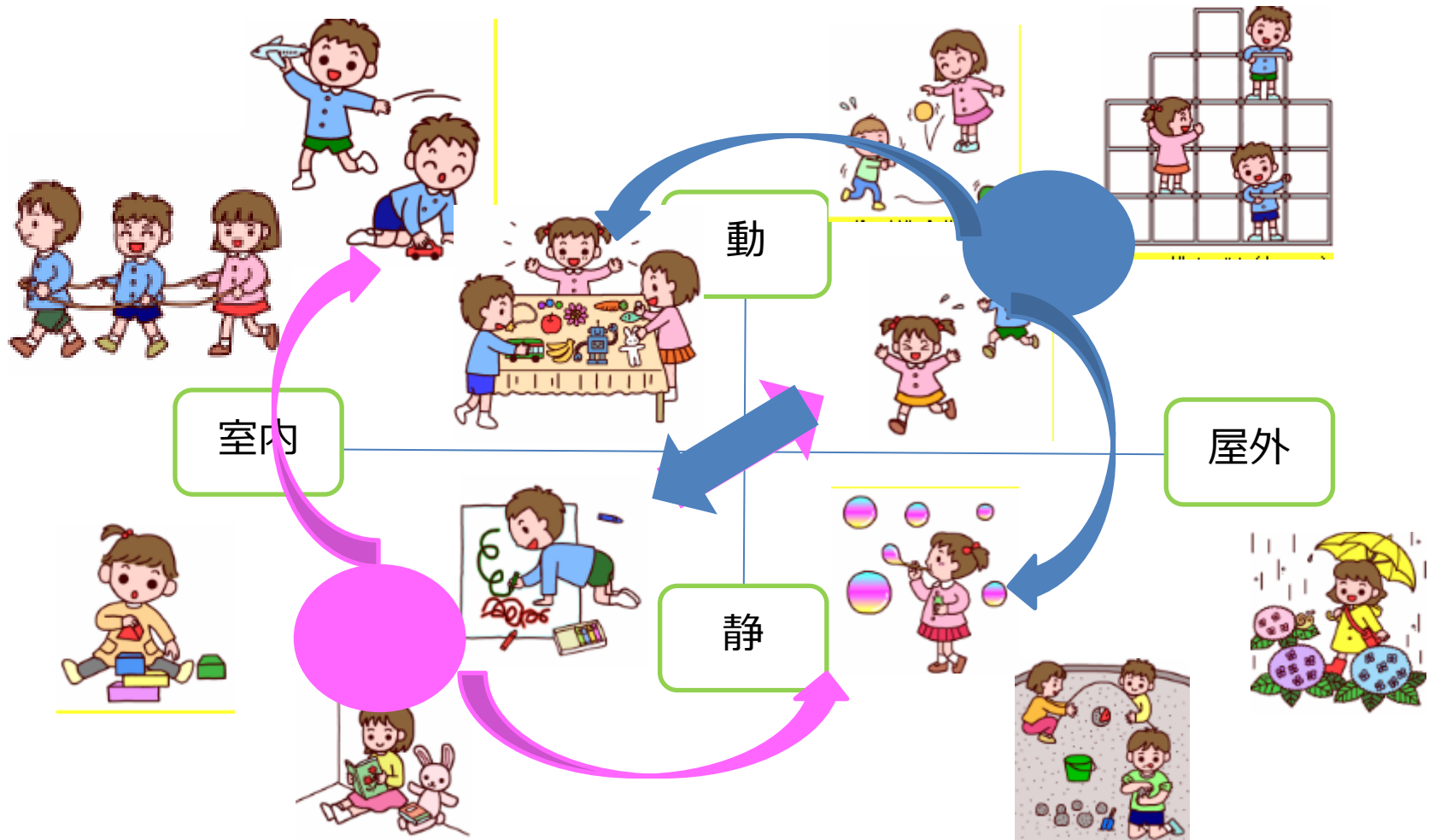
偏らない、知らないこと・出来ないことへの出会いの機会を意識する

いろんなものに触れることは、自分らしさ・好きなものを発見できる機会



3. 遊びの提案

遊びとの出会い



3. 遊びの提案

3-3. 子育て相談でのコミュニケーション

大人も子どもと一緒に楽しむ。

小さなころを思い出していただいて、どんな遊びが好きでしたか？

【遊びのバランス表】を参考にパパとママの好きな遊び、
今子どもが【好きな遊び表】に○をつけて見てください。

	パパ	ママ	ちゃん	ちゃん
屋内の静				
屋内の動				
屋外の静				
屋外の動				



(休憩10分)

本日のタイムスケジュール



イントロダクション

1. 事後課題のディスカッション

(休憩10分)

2. 子どもの把握

(お昼休憩60分)

3. 遊びの提案

(休憩10分)

4. 絵本の提案

5. まとめ・事後課題・アンケート

4. 絵本の提案



履修ゴール

「絵本」を通じて引き出せる力について理解する

○絵本を使った3つのチカラの引出し方を学ぶ

○保護者へ絵本の大切さを理解してもらおう

4. 絵本の提案

4-1. 絵本を読むことで引き出される力

想像力 = 自分は何がしたいのか、自分には何ができるのかを考え
見つけることができる

コミュニケーション力 = 共感を持って相手の話を聞くことができ、
自分の気持ちを相手に伝えられる

集中力 = 落ち着いてものごとを最後までやりとげることができる

繰り返し行うことでスキルが上がっていくもの

4. 絵本の提案

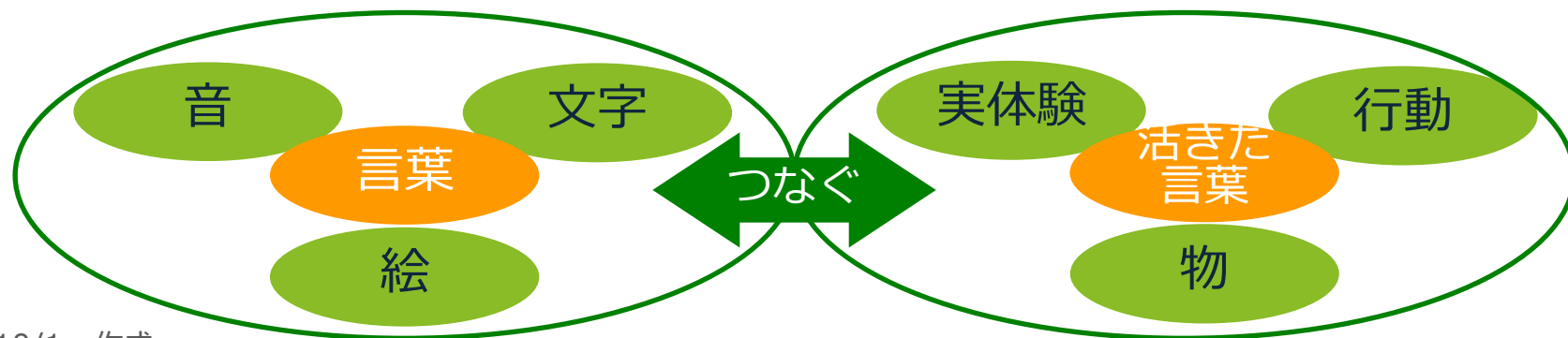
4-1. 絵本を読むことで引き出される力

想像力 = 自分は何がしたいのか、自分には何ができるのかを考え
見つけることができる

絵と言葉と文字をイメージでつなげることができる
活きた言葉とつなぐことで豊かな人生につながる

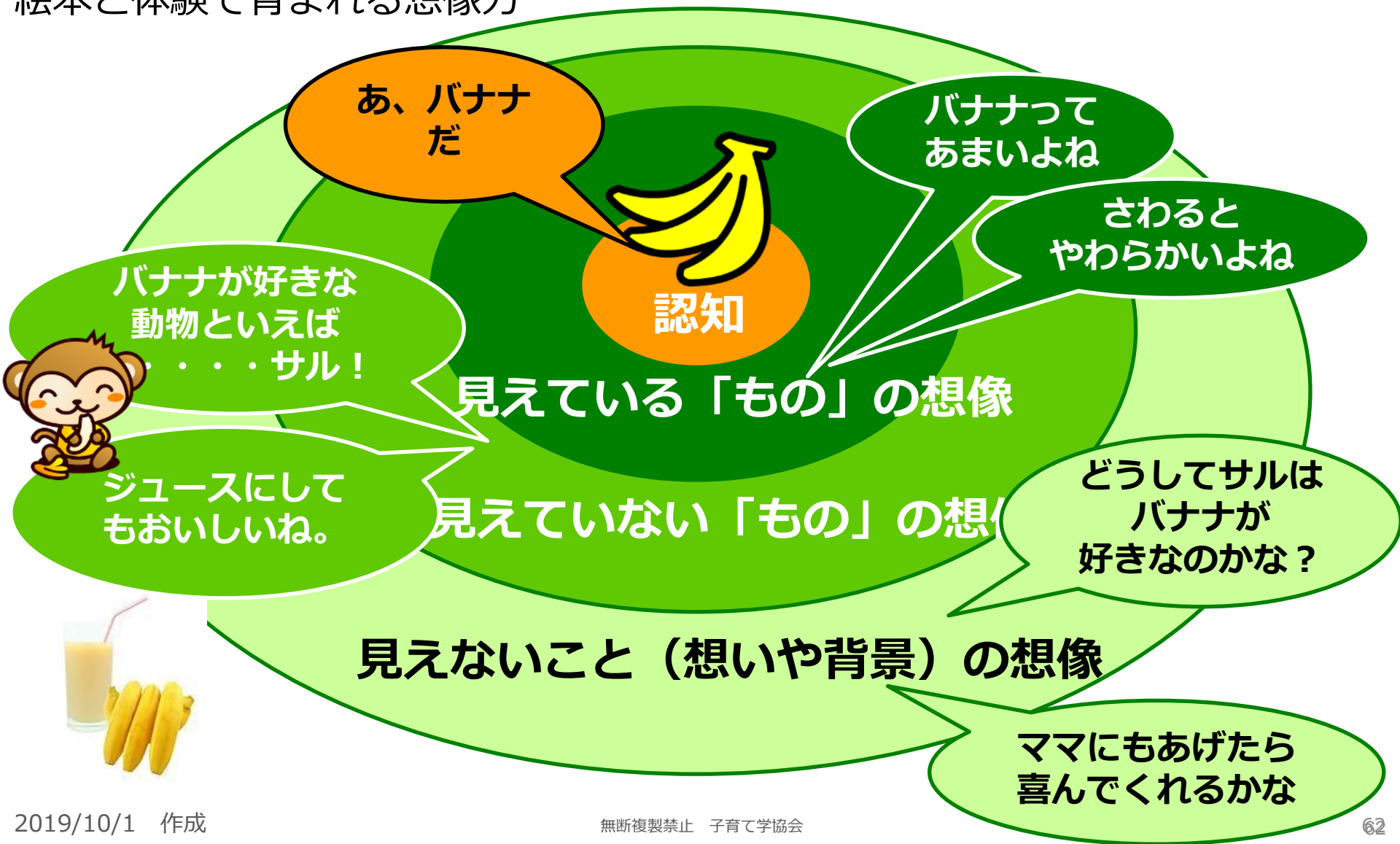
絵本の世界

遊びの世界



4. 絵本の提案

絵本と体験で育まれる想像力



4. 絵本の提案

4-1. 絵本を読むことで引き出される力

コミュニケーション力 = 共感を持って相手の話を聞くことができ、
自分の気持ちを相手に伝えられる

書かれた言葉を読むことでセンテンスとして理解することで、
行動や実際の生活や物事に結びつく言葉を獲得できる
EX)英会話

4. 絵本の提案

4-1. 絵本を読むことで引き出される力

集中力 = 落ち着いてものごとを最後までやりとげることができる

**7分～15分言葉を聞き続けることができる達成感が大切
習慣として身に着けることで、終わりまでやり遂げる達成感が快動になる**

4. 絵本の提案

4 - 2. 1stStage 絵本を使って認知を高める

集中力

言葉に触れる第1歩

認知：絵を見て話しかけることで物には名前があり物の名前を覚える

話を聞けるようになるための第1歩

絵本を見て話を聞くクセづけ

月齢6ヶ月～スタートできる

ものを集中して見る。話しかけが増える⇒発語に関わる。

文字の少ない絵本・絵だけの絵本

EX)「これはいちご、あかい。 あまーい。」

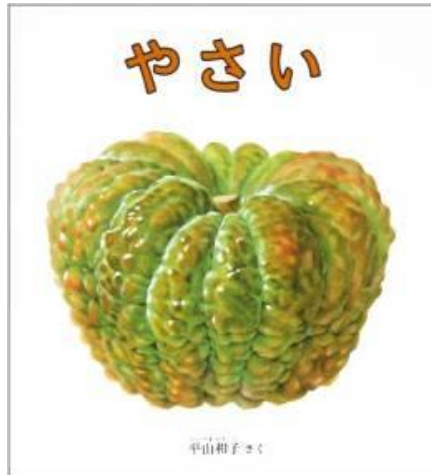
難しく考えず絵に関わる言葉を聞かせるだけでOK

アドバイスのPoint :

無理に1冊読まなくてもよい。絵本の時間を持つことを大切にする

4. 絵本の提案

4-2. 1stStage 絵本を使って認知を高める



4. 絵本の提案

4-3. 2ndStage繰り返しのリズムで「快動」

コミュニケーションカ

言葉を楽しむ

同じフレーズやセンテンスをリズムカルに楽しむ
「行きて帰りし物語」

最後まで読めた経験を積む

達成感を味わう

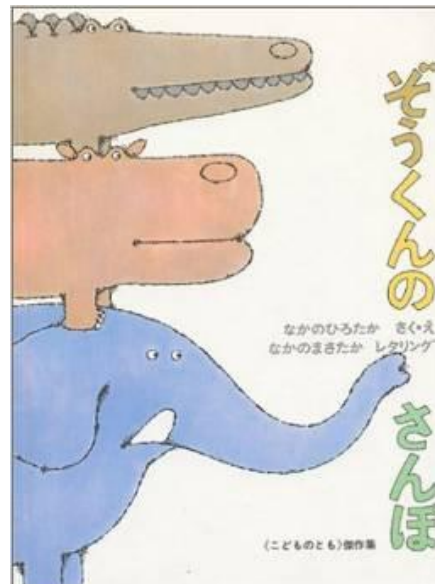
内容よりも、言葉の楽しさ、面白さに触れる機会が先。
親子で身体的な触れ合いの有る中での遊び＝絵本を遊びの世界に

フレーズを一緒に楽しむ
終わりが明確な本を選ぶ
絵本の時間の終わりにはパタッと本を閉じたりする

アドバイスのPoint :
示唆することや道徳観など意識せず、既成概念のないこの時期でしか
楽しめない「ありえない世界」を楽しむ

4. 絵本の提案

4-3. 2nd Stage繰り返しのリズムで「快動」



4. 絵本の提案

4-4. 3rdStageストーリーの楽しさに触れる

想像力

コミュニケーション力

物語の楽しさに親しむ

背景や登場人物の気持ちなどを理解しながら楽しむ

絵本を読む環境を整える

絵本を読む前に落ち着ける時間をつくる

問いかけで想像する楽しさを育む。

子どもの言葉や表情からどのくらい理解できているかを推し量る

昔から読まれている童話や絵本は良書を選ぶ

子どもに身につけさせたい価値観に触れることができる

アドバイスPoint :

**感想などを積極的に会話する。集中できていないと感じた時は、
「行きて帰りし物語」の絵本に戻る**

4. 絵本の提案

4-4. 3rd Stageストーリーの楽しさに触れる



4. 絵本の提案

4 - 5. 4thStage言語理解力を鍛える

想像力

絵に頼らず言葉だけで理解する

モノクロやセピア、絵だけでは判断しにくいいため言語理解度がわかる

読んだ後の会話を増やす

面白かったところ、好きなところを話してもらおう

拡大質問をすることで本人の価値観や考えを引き出す

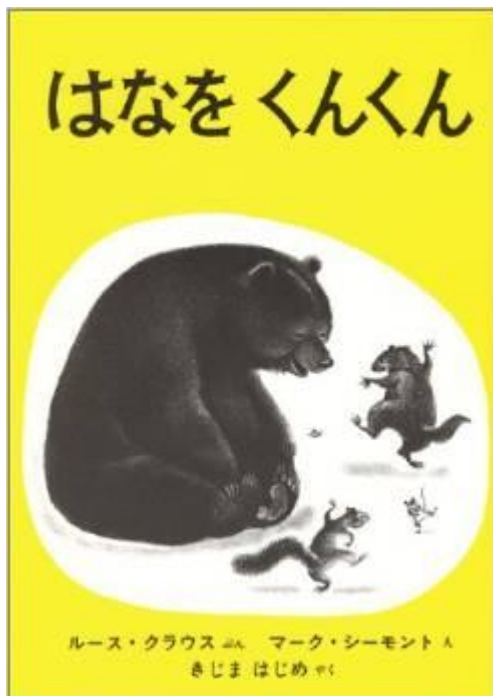
子どもの表情に気を配る。キョトンとしていたり集中できない時は、少し前に戻り理解力を鍛える

アドバイスPoint :

子どもが集中できないときは、理解力だけではなく、何か嫌なことがあったなど…他の要素が隠れていることも多い。子どもが言葉で表現しない不安を知るためにも絵本の時間は大切。大人も想像する力を養う

4. 絵本の提案

4 - 5. 4thStage言語理解力を鍛える





(休憩10分)

4. 絵本の提案

4-6. 絵本の世界を通じて育まれる心

好奇心 = はじめてのこと、知らない世界に対して興味が持てる

探究心 = 興味関心があることを楽しみながら深く掘り下げられる

自発性 = やりたいことを実現するにはどうしたらいいかを自ら考えられる

親切心 = 相手の立場を察し、相手のために自ら行動を起こせる

自尊心 = ありのままの自分を受け止め、自分を信じてチャレンジできる

道徳心 = いいことと悪いことの判断ができる

価値観 = 自分の信念を持ちながら、相手の考えも認めることができる

4. 絵本の提案

4-6. 絵本の世界を通じて育まれる心

絵本を通じた知らないことへの出会い
実体験のあることへのつながり
最後まで読めた経験
を通じて子どもの力を引き出す

絵本のストーリーを通して引き出す

4. 絵本の提案

4-7. 絵本の選び方

親切心

【すてきなさんにんぐみ】

自尊心

【しょうぼうじどうしゃ じふた】

道徳心

【たろうのおでかけ】

価値観

【スイミー】

4. 絵本の提案

4-8. 大人の絵本の楽しみ方

● 子どもおとな表

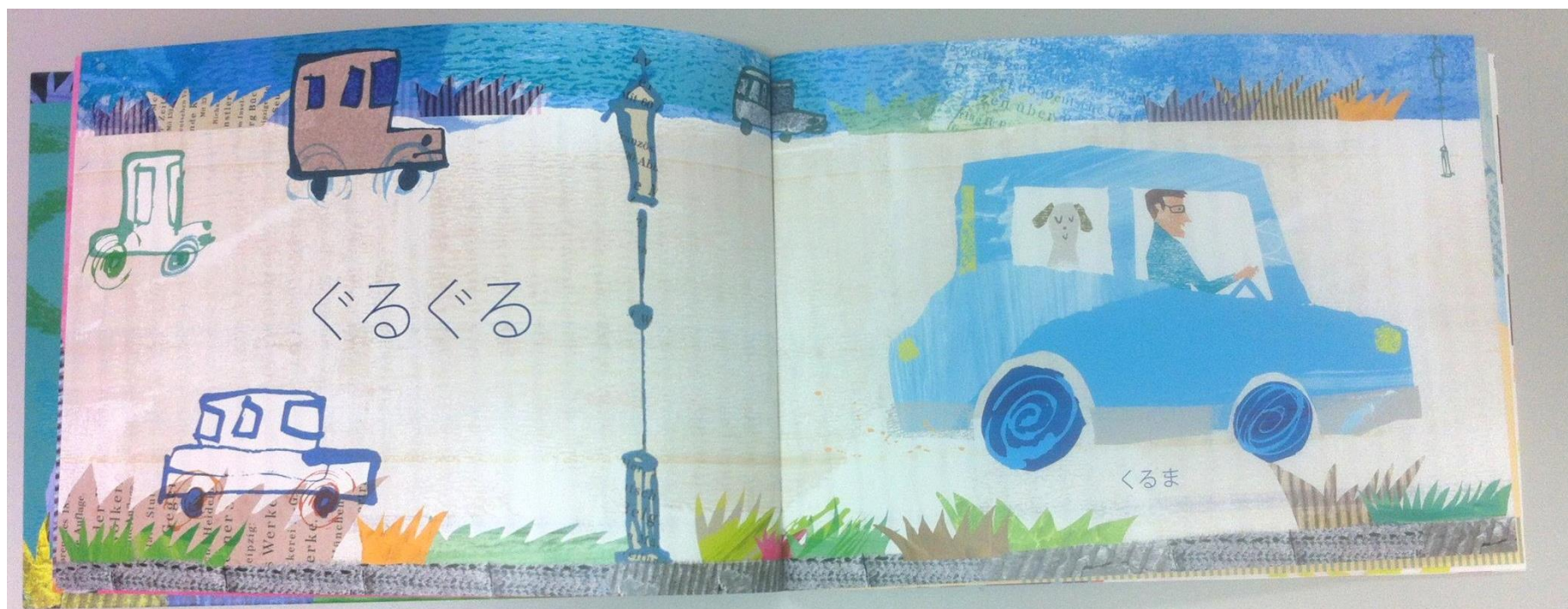
項目	子ども	大人
概念	ない	ある
時間軸	ない	ある
視野の幅	せまい	ひろい
五感	鋭い	鈍い
比較	しない	する
チャレンジ	したい	考える
満足度	プロセス	結果
感動	多い	少ない
本音	言う	考える
意識	ない	ある

今しかない子どもたちの持つ世界、大人との違いを楽しむ

4. 絵本の提案

4-8. 大人の絵本の楽しみ方

子どもの見ている世界を楽しむ



4. 絵本の提案

4-8. 大人の絵本の楽しみ方

子どもの見ている世界を楽しむ



4. 絵本の提案

4 - 8. 大人の絵本の楽しみ方

子どもの見ている世界を楽しむ



4. 絵本の提案

4-8. 大人の絵本の楽しみ方

● 子どもおとな表

項目	子ども	大人
概念	ない	ある
時間軸	ない	ある
視野の幅	せまい	ひろい
五感	鋭い	鈍い
比較	しない	する
チャレンジ	したい	考える
満足度	プロセス	結果
感動	多い	少ない
本音	言う	考える
意識	ない	ある

今しかない子どもたちの持つ世界、大人との違いを楽しむ

4. 絵本の提案

4-8. 大人の絵本の楽しみ方

- 子どもおとな表

項目	子ども	大人
大人の期待通りではない 子どもの反応や行動の 発見を是非楽しんで		

今しかない子どもたちの持つ世界、大人との違いを楽しむ

4. 絵本の提案

4-9. 子育て相談でのコミュニケーション

Step1.親の持っている絵本の知識を知る

⇒具体的な絵本の提案に必要な要素を把握する
どんな絵本を持っているか（絵本の名前が出てくるか）
子どもの時にどんな絵本が好きだったか

Step2.生活の中に絵本がどのくらい入っているかを知る

⇒どの時間だったら取り入れられるかを一緒に考える
今読み聞かせをどのくらいやっているか
毎日の生活のどの時間に組み込むと安心安全な時間がつくれるか

4. 絵本の提案

4-9. 子育て相談でのコミュニケーション

Step3.親へ絵本の動機づけをする

●子どもの効果

子どもにとっては、スキンシップになり親との大切な時間となり、心の安定に繋がる。

言語理解力が深まることによって コミュニケーションや理解力が増し、生活の中に役に立つことが非常に多い
小学校の国語にも大きく役に立つ

●大人の効果

日常からのリセットの時間

親子のスキンシップは親の心の安定にも繋がる

4. 絵本の提案

4-9. 子育て相談でのコミュニケーション

Q:

7ヶ月の女の子のママです。0歳児の赤ちゃんでは、絵本を読み聞かせても分からないのでしょうか？

A:

0才は何もわかっていないと感じがちですが、長年子どもたちを見ていると、0才の時にどんなことをしてきたのかが1才で分かる、ということを感じています。さらに、その先になって結果が出てくるのが子どもです。

1才になってから読み聞かせをはじめようと思っても、1才になると、自分の感情が表現できるようになり、活動的になってきますので、0才から絵本に関心を持つこと、触れていること、生活のなかに組み込んであげること、をおすすめしています。

0才から読み聞かせをやっているママも、やっていてよかったとよくおっしゃいます。絵本に注目しているだけで十分ですので、ぜひ0才から読み聞かせをしてあげて下さいね。

4. 絵本の提案

4-9. 子育て相談でのコミュニケーション

Q:
1才3ヶ月の男の子です。絵本を持ってきて、「読んでほしいアピール」をするようになりました。本が大好きなのですが、読んであげようとするとどこかに行ったり、渡すだけだったり、といまいち何をしてほしいのかがわかりません。本好きはこのままでいてほしいと思うのですが、どうしてあげたらよいのでしょうか。

A:
子どもが絵本の世界を楽しみ、本好きに成長していく過程で、生まれもった素質や才能に関係なく、人生に役立つスキルを育み、伸ばしていくことができると、著書でも書かせて頂いています。
絵本はぜひ読み続けてあげてほしいのですが、遊びの一貫で本を持ってきた時や、読み聞かせ中に次の遊びに取り掛かろうとした際には、「これを片付けてからにしようね」とひとつのことが終わってから次へいく習慣をつけてあげてください。また、読み聞かせの際には、膝に座って読む体制を整えてからにする、本読みの時間は夜寝る前にする、などの習慣をつけると、集中力がさらに養われていきますよ。

4. 絵本の提案

4-9. 子育て相談でのコミュニケーション

Q:
2才の男の子です。絵本に全く興味がなく、生後まもなくしていろいろな絵本を読んであげてみたのですが、オギャーっと泣き出してしまいました。泣いているのを無視して読んでみてもだめでした。現在も、「ママ、これ、邪魔」と言わんばかりに絵本を閉じてしまい、放り投げてしまいます。これも言葉の成長に関係しているのでしょうか？

A:
どんなふう to 絵本を与えているのでしょうか。慣れないうちは、絵本は少しでも注目していたらOKです。もう一度、好きなこと、もの、を取り上げた絵本から、『絵』だけを見るところからはじめてみたら良いと思いますよ。

昨今では絵本の『読み聞かせ』という言葉だけがひとり歩きしていますが、さまざまな絵本があるなかで、子どもそれぞれに興味関心があり、好きにも嫌いにもなります。幼児期はまだ間に合いますから、どうぞあきらめないで絵本の読み聞かせを続けてあげてほしいものです。

4. 絵本の提案

4-9. 子育て相談でのコミュニケーション

Q:
2才の女の子です。絵本読み聞かせの際に、声色は変えるべきでしょうか。それともふつうの声で読んだ方がよいのでしょうか。

A:
読み聞かせはとても大切ですので、ぜひ、毎日続けてあげてくださいね。子どもは大人が思う以上に読み入っていますから、登場人物に合わせて声色を変えていると、時に間違えてしまうこともあるかと思います。読むときに必要以上に登場人物に合わせて声色を変えることは、あまりオススメしていません。また、高い声よりも低い声の方が子どもは落ち着きますので、あまり間違えることのないように、低めの声を意識して読んであげてください。ママ、パパご自身が、読んだことのない本は読まないように気をつけてあげて下さいね。

本日のタイムスケジュール



イントロダクション

1. 事後課題のディスカッション

(休憩10分)

2. 子どもの把握

(お昼休憩60分)

3. 遊びの提案

(休憩10分)

4. 絵本の提案

5. まとめ・事後課題・アンケート

<振り返り①> 本日のまとめ



5-1. 本日のキーワード

1. 子どもの把握

子どもの状況把握を行う上で必要な観点を理解する

2. 遊びの提案

「遊び」と子どもの課題設定との関係を理解する

3. 絵本の提案

「絵本」を通じて引き出せる力について理解する

<振り返り②> 事後課題

2-7. 事後課題①

子どもの把握で
説明済

Withbookを見学し、子どもの様子の把握を行って下さい。

- ・「ワークショップカルテ」には、事実と考察は分けて記入すること。
- ・「徳性シート」に沿って子どもの徳性を記入してみましよう。
- ・考察を考える上で難しかったことをメモしておいて下さい。

※別途、事務局よりメールにて、課題の実施方法をご連絡いたします。

1月13日（土）の4回目までに行ってください

事前課題

事前課題①

子育てレスキューに目を通し、そのQ&Aで理由や背景など分からないものがあれば、いくつかピックアップし自分自身でも調べ、自分なりの解答を作成してみてください。

次回の講座で持ち寄りディスカッションをします。

※子育てには正解がありません。状況を捉えCFCとしての軸で考える練習でもあります。

事前課題

事前課題②

家族関係について本を1～2冊を読み、
ファミリービルディングを行う上で大切だと思う
ことをまとめてください。

※読んだ本の共有もしたいと思いますので、書名・著者・出版社も記述
ください。

※参考図書

団 士郎

「家族の練習問題—木陰の物語」

「家族の練習問題 喜怒哀楽を配合して共に生きる」（講談社プラスアルファ文庫）

「対人援助職のための家族理解入門—家族の構造理論を活かす」

アンケートご記入をお願いします



- 本日の事前課題を一緒にご提出下さい



お疲れ様でした！

- 次回は 12 / 2 (土) です
- またお会いできるのを楽しみにしております

アンケートご記入をお願いします



- * 提出方法 *
- ・スクショ写真
 - ・PDF化したもの
- メールに添付

本日の事前課題をメールでご提出下さい

- To : info@kosodategaku.jp
- Cc : watanabe@kosodategaku.jp